The Japan Society of Educational Sociology

隠れたカリキュラム概念の再考—カリキュラム社会学の再評価

名古屋女子大学　氏原　陽子

1 問題設定

カリキュラムを「あるがまま」に捉え、実証的に描くことを特徴とするカリキュラム社会学は、1960年代半ば、「新しい教育社会学」と関連して、イギリスで起こった。

10年を経て、わが国でも、教育社会学会第29回大会（1977）において、「教育内容の社会学」と題した課題研究が行われた。学力調査が旧来の知識観によって行われていることを明らかにする木原（1977）、「教育文化」の構造と教授学習過程における相互作用体系が教育経験の体系としてのカリキュラム化につながることを指摘する池田（1977）、地域の視点からみて、カリキュラムが都市志向であることを述べる溝口（1977）がみられる。

『教育社会学研究』第34集（1979）では、わが国の高等学校のカリキュラムを題材に、カリキュラム社会学の理論的視座の有効性を検討した田中（1979）がある。田中はそこで、教師が隠れたカリキュラムを伝達するなかで、規範的コントロールを行使していることを述べる。

『教育社会学研究』第37集（1982）では、カリキュラム社会学に焦点を当てる柴野、片岡がみられる。柴野（1982）は、教室の相互作用にみられる教師の潜在的メッセージが評価的意味合いを含むことに着目し、隠れたカリキュラムを「適切な生徒行動を規定するような暗黙の価値ないし態度」、「スクーリングの隠された構造を通して生徒に伝達されるところの『言明されない』価値、規範、信念」、「特定化されない自明のルール」と捉える。片岡（1982）は、カリキュラム社会学の「あいまいな」カリキュラム概念により、隠れたカリキュラムが生まれたことを批判する。

教育社会学でのカリキュラム社会学への関心は近年、弱まっている。隠れたカリキュラムに関心を向ける研究領域も、「ジェンダーと教育」研究へと移り変わっている。

そこで本発表は、隠れたカリキュラムを再考することにより、カリキュラム社会学を再評価することを目的とする。

2 カリキュラム社会学における隠れたカリキュラムへの着目

カリキュラム社会学において、最初に隠れたカリキュラムに着目したのはバーンスティンである（Bernstein　1977）。バーンスティンは、幼児の教育方法として、目に見えない教育方法に着目する。目に見えない教育方法の特徴は、子どもの行動、コミュニケーションなどを明確に規定することもなく、特殊な技能を伝達することが強調されることもなく、教師からの統制は暗示的である（弱い分類弱い枠組み）。しかし、実証的に研究すると、強い分類弱い枠組みを特徴とする、見えない教育方法の隠れたカリキュラムが存在する。

バーンスティンは、目に見えない教育方法が現場で実践される際に、評価方法と評価内容に関して、明らかにされる部分とかくされた部分がつくられることにより、教師の権力が強くなり、強い分類弱い枠組みという特徴をもった教育方法に変化すること、それが隠れたカリキュラムであること、を指摘する。

Eggleston（1977）は、隠れたカリキュラムが隠れている理由の一つとして、教室統制を挙げ、隠れたカリキュラムが教師と生徒との交渉から生じること、教師と生徒双方に対する過度の要求から彼らを守ること、教室論理を確立することにより、公のカリキュラムを包含することを論じる。

3 隠れたカリキュラムの捉え方

「隠れた」とされる内容、あるいはその内容に伴う二次的結果により、隠れたカリキュラムの捉え方を整理すると、大きく次の8つに分けることができる。①生徒が学ぶ学習内容、②教師が教える教育内容、③価値・規範・信念・態度、④メッセージ、⑤学校文化・学校の性質、⑥解釈・意味付与、⑦隠れたカリキュラムへの

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Educational Sociology

対抗、⑧隠れた機能。

①②は、教授・学習活動を通して教育・学習される内容に着目しており、表裏一体の内容である。③④は、①②の教育・学習される内容、あるいはその内容を規定するものといえる。⑤は、教授・学習活動が学校のなかで行われるという点、学校が個々の生徒・教師と学校外社会とを結ぶ役割をしているという点から、①②の外的あるいは内的要因である。⑥は、教授・学習活動として焦点化される教師―生徒、生徒間の相互作用のなかで構築されるものである。⑦は、「隠れた」とされる内容を「問題」とみなし、それゆえに、隠れたカリキュラムに対抗することを主張するものである。⑧は、正機能であれ、負機能であれ、隠れたカリキュラムに隠れた機能があるとみなすものである。

「隠れた」とされる内容に絞ると、隠れたカリキュラムは教授・学習活動を通して教育・学習される内容とまとめることができる。Portelli（1996）は、教師によって意図され、教師・生徒によって認識されるものも、隠れたカリキュラムと捉える。この隠れたカリキュラムは、実際のカリキュラム（actual curriculum）の一部ではあるが、公式的カリキュラム（official curriculum）の一部ではないという意味で、いまだ隠れている。つまり、公式的カリキュラムと隠れたカリキュラムとを分かつものは何かを探究することが求められる。

4　カリキュラム社会学の再評価に向けて

先のバーンスティンの論を応用するなら、公式的カリキュラムと隠れたカリキュラムとを分かつものは、カリキュラムの伝達過程の強さと弱さと考えることができる。それゆえ、公式的カリキュラムと隠れたカリキュラムとの境界はあいまいである。

そこで、カリキュラム社会学は、隠れたカリキュラムの「あるがまま」の姿を明らかにしていくことが求められる。一つの方策として、発表者は教育・学習される内容を規定するメッセージの背後にある、コンテクストを明らかにすることを提起したい。

コンテクストは、発信者が発信するコードと、受信者が受信するコードとにずれがあるような場合に、伝達内容を正確に受信者に受信させる働きをする。例えば、セクシズム的なメッセージが伝達されるコンテクストとして、教師・生徒の立ち位置、ジェンダー・バイアスが浸透している世界、学校形態を挙げることができる。

これらのコンテクストは、教材分析、教授・学習活動における相互作用分析を通して見出すことができる。つまり、実証的に明らかにすることによってのみ、隠れたカリキュラムは析出される。このような課題に、カリキュラム社会学が取り組むことにより、カリキュラム社会学は今日においても、意味のあるものとなることができるだろう。

参考文献

Bernstein,B.　1975, 佐藤智美訳「階級と教育方法―目に見える教育方法と目に見えない教育方法」Karabel, J. & Halsey, A.H. 1977, 潮木守一編訳『教育と社会変動　上』東京大学出版，227－260 頁，1980。

Eggleston,J.　1977, *The Sociology of the School Curriculum*, Routledge and Kegan Paul.

池田秀男　1977,「学校の文化的機能」日本教育社会学会第 29 回大会発表要旨集録，150－151 頁。

木原健太郎　1977,「カリキュラム構成理論の社会学的研究」日本教育社会学会第 29 回大会発表要旨集録，149 頁。

熊谷一乗　1982,「教育における知識と権力―M.Young の所説を中心に―」日本教育社会学会第 34 回大会発表要旨集録，3－4 頁。

熊谷一乗　1983,「学校知識の編成に関する社会学的試論―M.ヤング『知識成層論』を越えて」『教育社会学研究』第 38 集，172－184 頁。

溝口謙三　1977,「地域とカリキュラム」日本教育社会学会第 29 回大会発表要旨集録，152－153 頁。

Portelli J.R.　1993, “Exposing the hidden curriculum”, *Journal of Curriculum Studies*, Vol.25, No.4, pp.343－358.

田中統治　1979,「学校カリキュラムにおける教育知識の構成と伝達―高等学校を中心として―」『教育社会学研究』第 34 集，138－148 頁。

NII-Electronic Library Service